

審議会等会議録

会議の名称	令和3年度 第2回 加須市地域福祉計画推進等懇話会
開催日時	令和3年11月4日(木) 午後1時30分から午後3時15分
開催場所	加須市役所 4階 全員協議会室
議長氏名	加藤 美津枝 会長
出席委員	秋葉 豊二 委員、 潮田 花枝 委員、 加藤 美津枝 委員、 川野 謙一 委員、 尾高 幸江 委員、 田中 利枝 委員、 内田 親 委員、 馬場 弘壽 委員、 瀬々 正行 委員、 中山 由紀 委員、 成田 恭子 委員、 綱川 新一郎 委員
欠席委員	伊藤 栄 委員、 福島 祐一 委員
会議次第	1 開会 2 あいさつ (1) 会長あいさつ (2) 市長あいさつ 3 議事 (1) 加須市地域福祉計画(第3次)・地域福祉活動計画(第2次) 骨子案について 4 今後のスケジュール 5 閉会
会議資料の名称	資料1 加須市地域福祉計画推進等懇話会設置要綱 資料2 加須市地域福祉計画推進等懇話会委員名簿 資料3 加須市地域福祉計画(第3次)・地域福祉活動計画(第2次) 骨子案
会議の公開又は非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴者の数	0人
説明者の職・氏名	福祉部長 齋藤 一夫 福祉部副部長兼地域福祉課長 野崎 修司
事務局職員職・氏名	福祉部長 齋藤 一夫 福祉部理事 石川 雄一 福祉部副部長兼地域福祉課長 野崎 修司 福祉部地域福祉課主幹 石川 栄子 同課主査 福田 雄二
その他出席者職・氏名	加須市社会福祉協議会常務理事兼事務局長 石川 雄一 加須市社会福祉協議会事務局次長 正能 好子 加須市社会福祉協議会主幹 江原 淳
会議録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録 <input type="checkbox"/> 全文記録
その他必要な事項	

様式第 3 号 (第 8 条関係)

発言者	会議の内容(発言内容、審議経過、決定事項等)
<p>事務局</p> <p>加藤会長 大橋市長 各委員・事務局</p>	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>(1) 会長あいさつ</p> <p>(2) 市長あいさつ</p> <p>各自自己紹介</p>
<p>議長：加藤会長</p>	<p>3 協議事項</p> <p>(1) 加須市地域福祉計画(第 3 次)・地域福祉活動計画(第 2 次) <u>骨子案</u>について</p> <p>事務局より説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p> <p>議長：加藤会長</p>	<p>資料に基づき説明 (骨子案第 1 章の説明)</p> <p>第 1 章の説明に対しご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。</p>
<p>川野委員</p>	<p>去年と今年、未曾有の災害と言われるコロナに直面しました。という事は、コミュニティの崩壊のようなことが考えられます。コロナによるコミュニティの崩壊をどういうふうな反省点をもって、コミュニティや福祉の観点から、計画にどういうふうな形で盛り込んでいくのか、その辺の計画や企画がされているかを聞きたいと思います。</p>
<p>事務局</p> <p>議長：加藤会長</p>	<p>委員のおっしゃるように、コロナ対策ということで、アフターコロナの対応を計画として位置づけていかななくてはならないかというふうに思っています。具体的な記述につきましては、この後の章の施策展開の中で検討していきたいと思っております</p>
<p>議長：加藤会長</p>	<p>他にございませんか。</p> <p>それでは第 2 章から説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p> <p>議長：加藤会長</p>	<p>資料に基づき説明 (骨子案第 2 章、第 3 章、基本理念説明)</p> <p>第 2 章、第 3 章、基本理念の説明に対しご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。</p>
<p>秋葉委員</p>	<p>基本理念のところ、現計画に、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、個人として尊重されるという個人の部分が入って良いなと思っていました。今は、ジェンダーフリー、オリンピック・パラリンピック、障がいがあるとかないとか、同性婚を認めるとか、個人を尊重して支え合うというのもいいのかなと思っていました。今回それが入って</p>

事務局	いないというのは、地域の共生や絆とかを強調するために、個人として尊重するという言葉をあえて入れなかったのか、意図があつて落としているのかをお伺いしたいです。
秋葉委員	<p>個人の尊重についての説明が無いのではないかというお話ですが、無いという事ではなくて、広い意味での考え方としては捉えていて、細かい説明が抜けております。こちらにつきまして、どういう形で説明するかは考えさせていただきたいと思います。</p>
事務局 川野委員	<p>今後の施策を柱立てする中で、入ってくるという理解でよろしいですか。</p> <p>基本理念のところも検討させていただきたいと思います。</p> <p>第3章の基本理念で、地域で支え合い、助け合いながら暮らすことのできる「地域共生社会」の実現を目指しますとなっています。</p> <p>いろんな組織がある中で、自治会を母体とする、地域と密接型の自治会でのケアが一番わかりやすいと判断しています。ブロンズ会議が、自治会単位で色々な集会所とかに、気軽に高齢者の方々が寄れる雰囲気を作っていくことが一番近道で、健康状態や困り事が話せて、新たなコミュニティが生まれ、草の根的にやっていくことが一番良いなと思っています。そのためには集まる環境の整備、例えば集会場の整備も含めた形で、市の方から支援をいただいたり、地域の自治会単位で、サロンみたいな形で立ち上げていくのが、一番近道なのかと感じています。</p>
事務局	<p>ブロンズ会議立ち上げについて、いろんな面で市の方々や社会福祉協議会とかに支援をいただかないと、なかなか立ち上げが難しいので、相談しながらやっていければと考えております。</p> <p>敷居が高くないものをどれぐらいつくれるのかということが、この地域共生社会をつくる上での勝負だと思います。既存の仕組みだけを考えても大小いっぱいあると思います。そういったものをどう生かしてどう進化させていくかというのが、今度の計画の中で重要な部分になってくると思います。参考になるご意見ありがとうございました。これを次の施策体系を組んでいくときに、市の支援等も含めまして、組み合わせていくことは課題だと思っています。</p>
加藤会長	<p>ブロンズ会議の第2層が14できたから良いという訳ではないと思います。地域の皆さんも素人です。地域に任せないで、充実した事業ができるまで市や社協からの応援をお願いしたいと思います。設置しただけだと、皆さんが声をかけても集まってくれないという意見もありますので、お願いをしたいと思っております。</p>
事務局	<p>お話をいただきました通り、できたから終わりではなく、できたことがスタートでありまして、その活動をどう充実させていくかという</p>

内田委員	<p>のが大事なところだと思います。色々な面で市や社会福祉協議会の支援というのはしていかなければならないと考えておりますので、施策をくみ上げていって、どうしたらいいかというところも見据えて、考えて参りたいと思います。</p>
事務局	<p>23 ページに、社会福祉協議会に期待することが載っています。この中で、福祉のまちづくりが一番多いということですが、この福祉のまちづくりという概念というか考え方はそもそもどのようなことなのか。アンケートの回答者が何を期待して選んだのか。もう少し福祉のまちづくりについては、かみ砕いて説明した方が良くと思います。</p>
内田委員	<p>確かにアンケートの設問が大枠の話になっています。アンケートについては、今後、委員のご意見も生かしていくとともに、色々と細かい案件がぶら下がっておりますので、次回のアンケートでは配慮していきたいと考えています。</p>
馬場委員	<p>福祉というのは、一番は人間の幸せです。幸せという事が福祉の原点です。そういうことを考えていくことが良いと思います。</p>
事務局	<p>アンケートにつきまして、福祉ということに関しては、福祉を必要とするから福祉なのであって、必要としない年代も実は実態としてあると思います。年代によって、こういった福祉が欲しいとか、それによっても温度差が随分あると思います。内田委員が言われたように、非常に福祉という言葉は広がってしまって、課題、課題に追われてしまう実態があるのですが、と言っても一つ一つの課題と向き合わなくてはいけない。そのためには、年代層もあるだろうし、若い年代はこう考えている、年配になるとこういう思いがあるというようなアンケートの方法、一方通行的なアンケートではなくて、多角的に調査を積み上げて、課題に向き合っていく必要もあるのかなと感じます。</p>
田中委員	<p>いろいろな視点からの見方というのはやっぱり大事だと感じています。今回のアンケートにつきましては、前回の時との比較ということがありますので、基本的には前回と同じベースの質問で行って参りました。次回は、工夫して参りたいと思います。</p>
事務局	<p>若い世代の人たちが興味を示していけるような課題が、たくさんあると思います。子育てをしながら、働きながら、という若い世代の人たちにも、しっかりとアンケートをして、加須市に向けて要望はありますとか、埼玉の中でも加須市が本当に福祉的なもので他の地域よりもずば抜けてすごいというような、そういうものを一つ一つ、若い世代の方たちもしっかりした意見を聞いていくことが大事かと思いました。</p>
事務局	<p>計画策定の際にはアンケート調査を通常実施しているところです。</p>

尾高副会長

田中委員がおっしゃったように、若い世代の声がどうだったのかとか、年代や世代で色々な声があると思います。ほかにも総合振興計画を作る際のアンケートや、他の計画でも実施しておりますので、その辺の動向を確認した上で、今後の計画に生かしていきたいなと思っております。

ブロンズ会議を立ち上げようという会合は、私の住んでいる地区でもようやく始まりました。現実の動きとしては、先に進まないというのが現状です。地区では7千世帯があり、それを一つにまとめようとする自体、大変なことだなと思っておりますが、社協支部の方からとにかく形をつくってほしいといわれます。7千世帯のところは地区として11あり、小さい地区でさえ、3000という集まりの中で、ブロンズ会議をまとめるというのもとても大変ですが、何とかしたいなと思っております。

また、そのブロンズ会議を、民生委員が何とかしてほしいという話が出てきています。ブロンズ会議に民生委員は必要不可欠だという意見はわかります。これは地域で皆さんが皆さんを支えましょうという主旨のもとに始まったものなので、民生委員が一人で頑張ってもどうにもならないです。

実際コロナ禍で、民生委員の中から、ひとり暮らしの方が亡くなっていたという話は何人も出てきています。民生委員がいくらお尋ねしようと思ってもコロナで近づかないようにと制約があつてうまくいかない。社協によるヤクルト配達の見守り状態は、民生委員には見えてこないし、配食がなくなり1ヶ月に1回お年寄りの見守り活動もおぼつかないという状態です。お年寄りが1人で、孤独死をしたということがあつても、いたし方ないのかなと思ひながら、心を痛めております。本当に地域のために、住民のために、ブロンズ会議をするのでしたら、もう少し小さい範囲できちんと立ち上げられるような施策を教えていただきたいと思っております。

内田委員

ブロンズ会議の発足は、地域資源によって違いますので、尾高委員がおっしゃったように、大変なところがあります。私のところは樋遣川地区ですが、社協の支部単位、第2層までできています。その下の、支部の中の5つの大字をもとに、第3層の活動組織づくりを進めようとしております。ブロンズ会議は絆ということになるので、その地域の高齢者全員を対象にしないではいけません。高齢者65歳以上の実情把握をしたうえでこれからの友愛活動や声掛けするということに広げていけたらいいのかと私は考えております。

尾高委員がおっしゃったように、民生委員だけが重荷に感じないで、組織でやるので、組織のメンバーにはいろいろな団体の人に入っ

てもらわなければなりません。そういう人たちが大字単位で高齢者の実態把握をする。地域の人ならば、そこに誰が住んでいるか分かるはずですから、まずそこからスタートしようかなというふうに思っています。そこまで含んだ指導を、社会福祉協議会の立場でやらなければいけないと思います。そうすれば、ああそうかそういうことがあるのか。そのようにしてやってみようじゃないかというようになると思います。私はそういう考えを提案していこうかなというふうに思っております。

加藤会長

地域でバラバラなのは、高齢者相談センターの事務局の進め方が違います。積極的に相談センターが進めているところ、あとは地域でやって、そこへ相談センターが出てきて、決まったものに協力しましょうというところですか。それと、補助金が市の方から、高齢者相談センターにブロンズ会議の費用が出ているらしいですよ。でもそのお金は、地域として全然いくら使えるのかそういうものもない。こちらからお願いしたことはよくやったださるのですけれども、高齢者相談センターの扱いがまちまちかなと思っています。加須市全体で、事務局が統一できるように、話をしていただければ、ブロンズ会議はこれから大事だと思います。地域の住民地域を守ることですので、もう少し突っ込んだことをやっただけだと思っております。

事務局

地域ブロンズ会議は、まず第2層を16カ所つくるということで施策として進めてきました。ブロンズ会議というのは、1層2層3層の3層構造になっておりまして、1層は加須市全体、2層は16ある社協支部単位、そして3層は175ある自治会単位が、基本的な考え方になっております。どこの会議に行っても市の職員、高齢者相談センター、社会福祉協議会の生活支援コーディネーターは、そういった説明をした上で、ブロンズ会議を進めていくと考えております。

第2層を加須市としては、強力で推進しているところですが、実際に活動を行うのは第3層だろうということで、内田委員がおっしゃっていたように、樋遣川地区であるとか、あるいは、そもそも第3層しかないところも地域によって、活動がいまのところはバラバラです。ただし、考え方は、1層2層3層があるということを基本的に考えていただいて、こちらの事務を取り扱う担当は、福祉部門でいいかと、高齢介護課、各総合支所の市民福祉健康課、それと事務局として高齢者相談センターの職員たちで地域に行つて話を進めていく。そして、地域の皆さんと行政機関や様々な地域に属する機関を結びつけるのが、社会福祉協議会に配置している生活支援コーディネーターです。それと市の予算執行あるいは事務的な活動をするのが高齢者相談センター。この3者が一体となって、地域の様々な仕組みを作るだけで

川野委員

はなくて、実際に活動をしていきたいと思いますということで今進めているところです。過渡期ですので、意見や行き違いがあるかと思えますけれども、必ず意見は、市や高齢者相談センター、それから社会福祉協議会等にぶつけていただいて、意見を交換しながら進めていきたいと考えています。

第1層第2層の話まではわかりましたが、第3層については説明不足です。もう一つ気になるのは、社会福祉協議会と、事務局の温度差がありすぎます。事務局から上から目線で押し付けている感じが否めない。民生委員たちは、また市からの仕事が増やされたという認識でいます。もう少しそのコンセンサスをしっかり取らないと駄目です。でないと第2層で終わってしまいます。今年の2月に第2層のメンバー、事務局、社会福祉協議会、それから寿光園の方が来て説明してくれましたが、15分ほどです。私としてもこれはいい試みだというのは理解しました。ただその先に進まないのです。具体的にどう進めたらいいか、私の方から事務局にお願いして、メンバーを全部そろえてくださいと言いました。先月2時間ほど、新しいコーディネーター、事務局に、その他の地域はどうやっているのか、どういう進め方をしたらいいのかとなど3者間で、勉強させていただきました。いけば、ちゃんと設定してくれます。ただ、行かないと降りてきません。部長さんが言っているのは理想論です。現実はそのような問題です。

なので、第3層に落とすための社会福祉協議会、事務局のちゃんとコンセンサスをとって、どういう形であるかをまとめてもらわないと、せっかくいい試みですが、第2層で終わってしまうような気がします。スタッフがやっぱりコンセンサスをとって地域に落とさないか、浸透しないかと思えます。

地域の高齢者のケアは大事だと思っていますので、もう少しきめ細やかなケアが必要だと感じていますので、ご検討いただきたいです。

事務局

地域福祉計画・活動計画を作成していく中で、地域で地域の高齢者を支えていく、高齢者だけに限らなくなっていくことが、これからの地域共生社会であり、支え合っていく仕組みを作ることは大事だと思います。話の中で理想論ということがありましたが、これは理想論ではなくて現実的にヒアリングなどをやっているところがあります。それは、関係者の意見をきっちり受け止めていただいて、市、社協もそういった意見はしっかり受け止めたと思いますので、いろんな地域によって、温度差やばらつきがありますし、やり方もおそらく工夫しなくてはいけないだろうということを肝に銘じて活動を進めていきたいと思えます。そういうことをこの計画の中に落とし込んでいきたいと思えます。

<p>議長：加藤会長</p> <p>事務局</p> <p>尾高副会長</p>	<p>貴重なご意見をいただきましたので、この計画の中に反映していた だければと思っております。それではこれで議長の職を終わらせてい ただきます。ありがとうございました。</p> <p>4 今後のスケジュール スケジュールについて説明</p> <p>5 閉 会 閉会のあいさつ</p>
<p>会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。(注)</p> <p>令和 3 年 11 月 24 日</p> <p>署名 <u>加藤 美津枝</u></p>	

(注) 特に署名を要しない審議会等については、事務局名を記入してください。